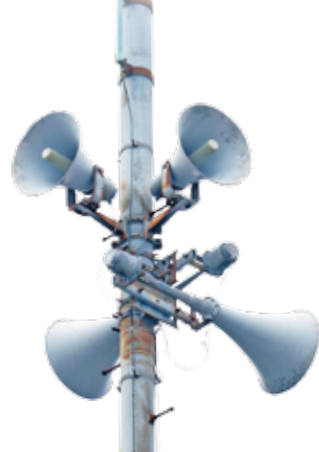


冥福を祈る

サイレン吹鳴

原爆死没者と戦没者の冥福と世界恒久平和実現を祈念し、広島・長崎に原爆が投下された8月6日、9日と、終戦の日である8月15日に毎年サイレン吹鳴を行っています。黙祷をささげていただきますようにお願いいたします。



☎ 福祉課 地域福祉係
☎ 内線 126

令和7年度から

市内戦争遺跡調査を実施

本市は、戦後80年の文化財事業として、包括連携を締結している国立大学法人鹿児島大学や地元有志の方々と共に、近年注目される戦争遺跡について、市内の基礎情報をあらかじめ整理する目的で、市内戦争遺跡調査を実施しています。

今年6月に実施した新城麓のまさかり海岸にある『震洋基地跡』の調査では、レーザー計測や3Dスキャンで記録しつつ、震洋艇を運んだり

ヤカーの痕跡らしき溝や、全体の構造について観察しました。

調査に参加した、同大学法文学部の山元創平さん（4年）は「震洋基地跡は高さが5メートルほどもあり、ほか地域のもの比べて、明らかに大型であることが特徴です」と分析しました。

今後は市内各所を分析し成果をまとめ、平和学習の資料として教育の場等で活用していく予定です。



▲ 震洋基地跡での調査の様子



▲ 痕跡を探す調査員

☎ 社会教育課 文化スポーツ係
☎ 0994-3217551

記憶を伝える

書籍たち

今特集の参考・引用文献として拝読した書籍をご紹介します。戦時中の様子や、戦争体験者の貴重な記憶が綴られています。このほかにも多数、戦争関連書籍が垂水市立図書館に保管されています。

- ① 垂水市史下巻 昭和53年(1978) 垂水市
明治維新以来百余年の間の郷土の発展が書かれた書籍。
- ② 垂水市史料集(十三) 戦後五十年戦争体験記 平成7年(1995) 垂水市教育委員会
戦争体験者の方々がそれぞれの体験を寄稿し、一冊の体験記として発行された書籍。
- ③ 太平洋戦争のつめあと 垂水市戦災日記 昭和40年(1965) 垂水市役所
垂水市郷土史家・山口栄之氏が昭和20年に書いた日記に基づく書籍。

今、私たちが
できること。

戦争から80年という時間が過ぎました。当時の記憶を見て、聴いて、知ることでも今も私たちの胸に刻まれ、未来への教訓として語り継がれています。

今を生きる私たちにできること、それは、過去の過ちを繰り返さないことだと思います。そのために、次の世代へ戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えることが大切です。

本特集を読まれた皆様が、身近な方や子どもたちと、戦争と平和について改めて考えたり、伝えたりするきっかけとしていただければ幸いです。

